

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470800929	事業の開始年月日	平成16年4月16日
		指定年月日	平成34年9月1日
法人名	有限会社 ビリーブ		
事業所名	リングリング		
所在地	(〒236-0051)		
	横浜市金沢区富岡東6-4-29		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	5 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成28年12月15日	評価結果 市町村受理日	平成29年5月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>5名と少人数なのでホームの雰囲気はなく大きな家族の様な印象を受け、個々に合った対応をすることが出来る</p> <p>天気の良い日は近所の公園への散歩や、行事で年2回全員での花見と遠足は車で遠出をして、季節を楽しんでもらっている。</p> <p>昔ながらの家なので、まるで自宅にいるように過ごすことができる。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年1月18日	評価機関 評価決定日	平成29年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は京急富岡駅から徒歩2分ほどの住宅地にある。駅の近くにありながら静かで、付近にはスーパーや商店があり買い物にも便利である。大きな木造2階建ての家を改修した定員5名・1ユニットのグループホームである。庭が広く家庭菜園で野菜を育て収穫している。近隣の3軒で共有の井戸がありポンプアップして利用している。周辺の建物も古くからの木造建築で緑が多く小道でつながっている。車は乗り入れられないので近くの駐車場に置いている。

【地域で暮らす実践】

富岡地区南部町内会に入り近隣とおつきあいを大切に大きな家族として暮らしている。法人の理念は「人間関係の構築」を基本とし、利用者職員、事業所と町内会や近隣の方々との信頼関係を深めるように努めている。散歩時に出会った方と挨拶を交わしたことから顔馴染みになり、差し入れを頂くこともある。隣家の住民が民生委員を務めており運営推進会議への参加や日頃からの協力をしてもらえる関係である。地域住民として地域の祭りや防災訓練、草取りや清掃に参加している。地域ケアプラザで催されるフラダンスや歌の鑑賞に出かけている。

【旬を楽しむ食事】

季節感を大切に旬を楽しむ献立を考えている。献立は利用者の希望も聞きながら職員が作成し、旬の食材を調達するようにしている。毎日の食事は彩りもよく栄養バランスに配慮されたもので職員が大きな台所で手作りをしており、庭の畑で収穫した野菜も食卓に上がっている。毎食、写真を撮り献立と食材を記録し、そのファイルを参考に献立の工夫をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	リングリング
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を利用者に説明し、納得してもらい職員全員で取り組んでいる。	理念は平成16年の事業所開所時に管理者と当時の職員で作成した。理念は玄関に掲示したり、事業所の案内書に明記して職員、家族、利用者、来所者などに周知している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の防災訓練の参加、町内の掃除の参加、お祭り等の参加している。	富岡地区の南部町内会に入会し、回覧板が回ってきている。地域の祭りや防災訓練、清掃活動などに職員と利用者が参加している。地域ケアプラザで催される踊りや歌の鑑賞に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時は、スタッフ・利用者共にこちらの方から挨拶するように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催し、ホームの行事や近況報告を行い、第三者との意見交換の場としてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議のメンバーは地域の有識者、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員で、2か月ごとに開催している。事業所の活動報告や意見交換、情報交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	内部での判断に困った時には運営推進会議で相談している。生活保護の人のことは随時保護課の担当者と連絡を取っている。	横浜市や金沢区主催の研修に職員が参加している。主な相談先である市健康福祉局高齢福祉課、区生活保護課に電話連絡をしている。生活保護課の職員は運営推進会議に時々参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止の基本法令遵守マニュアルを職員全員が把握し、研修・勉強会での内容を理解のもとに生活支援を実践している。	玄関は施錠していない。人感センサーを設置して出入りに配慮している。身体拘束に関する外部研修に職員が参加し、事業所内の会議で報告している。職員には身体拘束とは何かを周知して日々の介護をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	5項目の虐待の事例などを業務日誌・掲示場所に掲示し職員全員が共通認識のもと絶対に虐待行為を起こすことの無い様に会議での勉強会も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば関係者と話し合い区役所の担当や包括に相談したり、意見を求めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族様には面接時に十分な説明をして納得・理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	独居の方が多く、またご家族との縁があまりない方もいて、家族会は設置していない。家族来所時には意見・要望を聞き、利用者の状況変化についてはその都度電話又は文章で報告している。	家族会や意見箱の設置はないが、家族の来所時や電話で意見や要望を聞いている。職員の名前が判らないとの意見があり、クリスマス会の写真に名前を入れて郵送した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員全員参加による定例会議、毎日の連絡ノート、緊急性のある場合は緊急会議を行っている。	職員間には日々の申し送りの連絡帳や毎月の定例会議で情報共有をしている。緊急時には随時会議を開いている。個別の職員面接はしていないが、いつでも話ができるようにしている。職員の提案で利用者が椅子に座ってできる家事手伝いを取り入れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話、会議で職員の希望等を聞き、希望に添えるように努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合ったレベルの研修を希望により受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他ホームの施設長に連絡を取り疑問等のあった場合は意見を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントで、利用者ご本人の希望を聞き取り、信頼関係を築くことにより不安な気持ちを汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望等をよく聞き出来る限り希望に応えるように努めている。できないことは説明をして納得していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望に応えるため、必要とされる最良の支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人お一人お一人の希望・思いを考慮した対応と共同生活の一員としての生活を共にできるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心していただくことを先ず心掛け、コミュニケーションを良くし、ご本人の生活の場を作っている。又、月に1度は近況報告と写真を送付し関係を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各利用者が、得意なことや趣味が継続してできるように個別支援を組み込んでいる。	家族対応で墓参りに行く方や娘の家に外泊する方がいる。訪問時にも家族と外出する方がいた。年賀状や電話の取次ぎをして関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの交流する場として音楽の時間、歌の日を毎週決められた曜日に設けてコミュニケーションが広がるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も連絡は取るが、次第に疎遠になってしまう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が日常会話や日々の対応の中でご本人の意向を引き出すよう努め、毎月の会議において意見交換をし、検討している。	入所時および要介護認定更新時にアセスメントをしている。日常の会話の中で希望を聞いている。意思表示が困難な場合には表情や態度から検討し、本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、ご家族の聞き取りを参考に、入居後の生活状況を見てコミュニケーションを取りながら本人を知る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の利用者さんの様子・状況を観察し、お一人お一人が暮らしやすいように、また過ごしやすいように努め取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎の介護計画更新時には職員全員がアセスメントシートに記入、支援方法を検討している。ご本人とご家族の意向もその都度聞き取りを行っている。	介護計画作成時には利用者や家族の意向を確認している。短期目標は3か月ごとにモニタリングをして見直している。往診医、歯科医、マッサージ師の意見も聞いている。職員は各々気づいた課題を提案している。	介護計画の実施状況の確認および、見直し時の課題抽出につながる記録の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子・状況などケース記録に記入をしている。申し送りはしっかりと行い、その他に連絡帳にて共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者のニーズに対応ができるよう、その時に必要な支援を職員全員で話し合い取り組んでいる。またその都度ご家族へ報告し、連絡を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケアプラザ・町内会参加による運営推進会議を実施(2か月毎)町内のお祭り消防訓練への参加、地域ケアプラザの催しへの参加。町内会参加による避難訓練の実施などコミュニケーションを深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	湘寿クリニックの往診を主として先生の指示のもと疾患部位の専門医への受診、又はご家族の希望する医療機関の受診も行い支援に努めている。	入所後は協力医療機関の医師がかかりつけ医となり、利用者は全員月2回の往診を受けている。皮膚科に職員対応で通院している方もいる。歯科医は週1回来訪し治療や口腔ケアをしている。協力医療機関の医師とは24時間電話連絡で相談できる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	湘寿クリニックの主治医に様子や状況、詳細な情報をしっかり伝え、お一人お一人が適切な医療を受けられるよう努め支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	湘寿クリニックの主治医との連携を密にし、その都度指示を受けるようにして医療機関との連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「緊急時の意向確認書」の同意書と「重度化した場合の対応にかかる指針」をお渡しし、看取りを行わないこと、退去の要件等を説明している。	入居契約書の中に「原則として看取りは致しません」と明記している。契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を渡し説明したうえで契約している。身寄りがなく医療行為が必要のない方を看取った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応手順マニュアルを作り職員が即時対応できるようにし、連絡網も作成、事態に備え、定期的な訓練も実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方々の参加によるものと、利用者及び職員だけの消防避難訓練を年2回は必ず実施、災害関係の講習会への参加している。	夜間火災を想定した避難訓練と日中火災を想定した避難訓練を実施した。後者の訓練では近隣に呼びかけ、5人の方々から立ち会いと協力を得られた。備蓄は2日分用意している。近隣の3軒共有の井戸が庭にある。	大規模地震などでライフラインがストップすることを考慮し、食品は職員と利用者の人数の3日分以上を、飲料水は一人一日3ℓの3日分以上を備蓄されることを期待します。また、備蓄台帳を作成するなどして在庫の情報を共有・管理されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんと呼ぶ時、基本は姓を「さん」付けて呼んでいるが、ご本人の気持ちを大事にする為、時にはご本人が望む呼び方にする時もある。又、居室に入る時・介助する時は必ず声を掛け許可を取っている。	個人情報を含む記録は事務所内の施錠できるロッカーに保管している。職員は接遇について学び、言葉遣いに気を配っている。大きな家族として信頼関係を深めるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんとの会話やコミュニケーションで思いや希望を汲み取るよう心掛け、それを自己決定できるよう声掛けやサポートをするよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者さんとの会話などから状況を把握し、お一人お一人に合った散歩コースを考えたりレクリエーションをしたりして利用者さんの希望に沿う対応することを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みは極力取り入れそのうえで、脱ぎ着が楽で季節に沿う服装を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員一緒に食事をし、一人一人の好みも把握し、普段の食事や誕生会行事等の時々に取り入れ、必要に応じて食べやすい工夫し、食事が楽しくなるよう努めている。又、自家栽培した野菜を食卓に提供している	献立は職員が考え、旬の食材を使い季節感を意識して調理している。庭で育てた野菜も食卓に上がっている。誕生会には、好みのものを提供している。正月やひな祭りには行事食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養を考えたメニューを作り食事量を把握し、水分量についても食事・おやつ・入浴後に水分を取ってもらい、その他に利用者さんからの訴えにより提供している。夜間に関しても各居室にすぐ飲めるように水分を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず声かけ見守りで口腔ケアを行ない、主治医の先生の指示などによりご本人に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間の声掛けやポータブルトイレ設置、リハビリパンツやパッドの利用・交換など各利用者に対応した自立の支援をしている。	排泄チェック表を作成し、利用者の状況を記録している。それを参考に個々に合わせた声掛け誘導をして、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者さん一人一人の排泄記録と、飲食・運動・生活活動の把握と注意に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴は難しく曜日を設定させて頂いている 強制ではなくある程度拒否を受け入れ各利用者に合わせて会話や入浴方法を心掛け、楽しい入浴を実施している。	職員が介助や見守りをしながら週3回入浴をしている。夏季には必要に応じてシャワー浴をしている。浴室の入り口には事業所の名前が入った「ゆ」の暖簾が下がっていた。 菖蒲湯、ゆず湯、ペパーミント湯や入浴剤を使い、入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さん一人一人が安心して睡眠を取れる様に寝具の清潔保持、室内の温度管理に注意をはらっている。又、必要に応じてポータブルトイレを夜間室内で使用できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、受診ファイル・連絡帳に薬の内容を記入し、情報を共有している。又、ピルケースにも薬の内容を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での役割として居室の清掃、洗濯物たたみ、食器拭き等のほか色々な作業を利用者の能力に応じてやって頂いている。又、散歩や体操、レクリエーションとしてのカラオケやゲームなど利用者も快く参加している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力・能力に応じて散歩のコースを変えたり、衣料品・食品などの買い物に同行支援している町内のお祭り、地域ケアプラの催しへの参加、年間行事としての遠足または外食も度々実施している。	晴れていれば毎日散歩に出かけている。個人の買い物には職員が同行している。地域の行事や地域ケアプラの催しに参加している。お弁当持参で花見に出かけたり、公園散策をしている。また外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームが行っているが、ご家族同意のもと少額をお財布に入れて所持している。希望があれば職員と一緒に買い物に行きご本人が満足できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により手紙や電話等で、ご家族と連絡を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除を職員と利用者さんそれぞれができる範囲で一緒に行うことで清潔を保持し、共用の場には季節ごとに季節を感じ取れるものを配置し生活空間に愛着を持てるよう努めている。	広縁は日当たりもよく窓から広い庭の花や木が一望できる。訪問時、玄関には庭に咲いた水仙と千両が活けてあり、和風が飾られて季節感を出していた。毎月みんなで作成している、ちぎり絵が広縁の廊下の壁に飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを共有の場として利用者さん同士が会話したりして楽しい時間が持てるようにし、決まった席に座るようにしているので安心できる。独りになり新聞を読んだり、自分の好きなことをすることもできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お一人お一人が慣れ親しんだ物、又は衣服等きちんと配置を行っている。ご家族の写真を飾ったり、誕生日のポスターや行事での写真なども飾って居心地よく過ごせるように取り組んでいる。	利用者の好みの家具や写真、人形、仏壇などを置いている。職員が手伝いながら毎日掃除をして清潔にしている。ベッドの部屋も毎日布団を片付けるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のある部分には、わかりやすくテープを貼ったり、手すりを設置したり、お一人お一人の能力に合わせ声掛け見守りの支援している。		

